

令和3年度第1回秦野市廃棄物対策審議会概要

1 日 時 令和3年7月30日（金）午後2時3分から午後3時31分まで

2 場 所 秦野市役所 本庁舎4階 議会第1会議室

3 出席者 12名（欠席2名）

東海大学名誉教授	原田一郎氏
秦野市自治会連合会上地区自治会連合会副会長	竹内 進氏
東海大学教養学部人間環境学科准教授	小栗和也氏
多摩大学グローバルスタディーズ学部特任教授	橋詰博樹氏
秦野市農業協同組合女性部副部長	吉田美津江氏
秦野市商店会連合会副会長	柏木真一氏
秦野商工会議所	高橋大助氏
秦野市PTA連絡協議会会長	内田慎之介氏
秦野市食生活改善団体副会長	古谷典子氏
東京地方税理士会平塚支部	斉藤拓哉氏
公募市民	奈良利代子氏
公募市民	松岡 守氏

※以下、欠席者

公益社団法人神奈川県宅地建物取引業協会	
湘南中支部秦野地区会	石田岳志氏
公募市民	齋藤利男氏

4 会議概要

- (1) 委嘱状交付（机上配付）
- (2) 市長あいさつ（市長他の公務のため内田副市長が代理）
- (3) 諮問

内田副市長が諮問書を読み上げ、原田会長へ手渡した。

（諮問後、内田副市長は公務の都合により退席）

- (4) 委員の変更について

秦野市農業協同組合から桐山氏の後任として、吉田美津江氏が就任

秦野市PTA連絡協議会から中園氏の後任として、内田慎之介氏が就任

任期は規則に基づき本日から前任者の残任期間

(5) 議事

ア 改定計画の対象期間及びスケジュールについて

事務局から改定計画の対象期間及びスケジュールが示された。

―意見等なし―

イ 改定計画の基本理念、基本方針について

事務局から改定計画の構成並びに前回会議を踏まえて修正された基本理念及び基本方針の案が示された。

基本理念、基本方針については今後も必要に応じて議論するが、資料2-3をもって概ね了承され、新たな基本方針を軸にしつつ、具体的な施策を論議していくことが承認された。

委員から次のとおり意見があった。

(ア) 私も概ね改定案でよいと思うが、温暖化対策との関係が分からない。

いま国から素案が示されているが、まだ議論が見えてこないところがある。そのため、現段階では柔軟性を持たせていたほうがよいと思う。

(事務局回答) 前回会議でSDGsとの絡み入れられないかと御意見をいただいているので、温暖化対策も前文に入れるとか、紐づけるとか検討していきたい。

ウ 可燃ごみ組成分析の結果について

事務局から家庭系可燃ごみ組成分析の結果が示された。

委員からの意見及び質問は次のとおり。

(ア) 本来、混ぜられなければ資源となるはずなので、食べ残しを減らすとともに、紙類、プラスチック類をもっと分別していただければ、可燃ごみはもっと減るとのことだと思ふ。

(イ) 地域特性があれば、それを踏まえた対策を考えていくべきだ。

また、[5年前に比べ]プラスチック類が増えた理由は何か。

(事務局回答) 地域ごと特性とは紐づけはできていないが、コロナ禍により外出自粛し、在宅時間が増えたことも遠因となり、買って家で食べるなどで容器包装プラスチックが増え、その分可燃ごみへの混入も増えたと考えている。

(ウ) 色々分析してほしい。分析結果を発表し、市民にさらなる協力を促してほしい。

(事務局回答) あまり詳しくはないが円グラフの形で8月15日の広報特集号に掲載し、まだまだ分別していただきたいと呼びかける。

(エ) その他のプラスチックが増えているが、どのようなものか。

(事務局回答) 容易包装以外のプラスチック、いわゆる製品プラスチックだ。現状の本市の体制では資源化しようがなく、可燃ごみに分別していただいている。

エ 改定計画の目標値について

事務局から目標値を設定するための要素が示された。

委員からの意見及び質問は次のとおり。

(ア) ベースとして令和2年度の排出量実績を採用したとのことだが、事業系ごみについては、例年に比べ減っている。経済活動の問題があったためだと思う。状況が元に戻ってきたときを考えると、2年度を基準にしているのかという問題がある。家庭系可燃ごみについてはライフスタイルが変わっていくので、この年度の実績でよいと思うが、この辺りはどういう考えか。

(事務局) コロナの影響を受ける前の年度と影響を受けている令和2年度とで平均をとるなど、他にも考え方はあると認識している。コンサルタントとも相談したが、コロナの影響が今後どこまで続くかは不透明だ。そのため、基準年としては直近を採用しているが、事業系ごみのように例年と異なる動きがあったものはコロナ前のように戻ることも考慮して目標値を設定していく必要があると考えている。

(イ) コロナ禍では家庭系ごみは増えているが、事業系ごみは減っている。改定年度は結果が出る頃かもしれないので、注視していく必要がある。秦野の場合は、推計ベースで目標値を定めているのではなく、中間目標年度にここまで減量しなければならないということありきで設定する。目標に見合うだけの施策を持っていなければいけない。これまでは順調に実績が出ているのは望ましいが、維持できなければならない。そうなった場合に備え、策を考えておかなければならない。

(ウ) 市民ひとり一人にどうやって意識を植え付けていくか。実績のグラ

フが出ているがこういうものを生かした方策を検討してほしい。

(事務局) 昨年度からはカラーで見やすくした「ごみ減量通信」を発行している。本年度も同様に市民の皆さまへ周知したい。回覧等で自治会のお力を借りると思うので、お力添えをお願いします。

- (エ) せっかく調べたのでよく分析して情報発信してほしい。
- (オ) ここにお集まりの皆さんは自治会連合会、商店会などの団体から来られている委員もおられる。その中でどう展開するか考えてもらいたい。それぞれの所属でどう周知活動をするか、どうごみを減らすか、持ち帰って団体にぜひ議論してもらいたい。
- (カ) 情報ネットワーク、チームプレーが必要になる。ここにお集まりの委員の皆さんは、1施設化を前にして、可燃ごみの目標数値がクリアできなければ焼却施設がパンクするという認識を一種の危機感として共有できていると思う。それを軸にぜひ多くの人に共有してほしい。

オ その他

—意見等なし—

(6) その他

事務局から優良事業所等認定制度第1回目の認定について報告

(7) 連絡事項

ア 次回会議は10月28日(木)14時から。事務局が具体的な数値目標、個別施策を含め、事務局から計画素案を示す。

イ 次々回会議は来年2月の予定

ウ 委員任期は、本年8月26日までだが、計画改定に当たって引き続き審議いただきたいので、出来る限り継続いただきたい。就任の依頼文は改めて通知する。なお、年度ごとの任期となるよう次の任期は2年後の年度末日(3月31日)までとしたいと考えている。

エ 本日の会議資料3は数値を修正して送付する。

以上